

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	キャリアデザインC		
英文授業科目名	Career Design C		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	通年	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	演習	単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-自由科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	中野 和司		
居室	西2-323		

公開E-Mail	授業関連Webページ
nakano@ee.uec.ac.jp sakae.zembutsu@ntt-at.co.jp	http://www.ljung.ee.uec.ac.jp/

<p>【主題および達成目標】</p> <p>技術開発に必要な技術者の基本的素養について理解し、プロジェクト演習によってそれを体験的に身につける。また、技術者倫理を学び、技術者としての主体的行動力と向学心を高揚する。</p> <p>これによって、以下を育成する。</p> <p>(1)エンジニアリングデザイン能力（工学的問題に対する課題設定、解決案の探索・創造、専門知識と技術の応用による課題解決、結果の評価および記録）</p> <p>(2)グループワーク遂行能力（積極性、協調性、リーダーシップ、計画性、等）</p> <p>(3)技術者倫理と法令遵守</p> <p>(4)コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力（文章記述力を含む）</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>特にない</p>
--

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>「キャリアデザインA」、「キャリアデザインB」を履修していることが望ましい。</p>

<p>【教科書等】</p> <p>特に用いない。</p>

参考書については、授業の中で適宜示す。

【授業内容とその進め方】

(1)授業内容（詳細は、上記Webページを参照のこと）

- 1 回目 (4/15) ガイダンス
- 2 回目 (4/22) 技術者の資質・能力
- 3 ~ 6 回目 (5/13 ~ 6/3) プロジェクト遂行の基本 (1 ~ 4)
- 7 ~ 9 回目 (6/10 ~ 6/17) プロジェクト演習 (授業3回分 + 1回分)
- 1 0 回目 (6/24) プロジェクト演習
- 1 1 ~ 1 4 回目 (7/1 ~ 7/15) プロジェクト演習 (授業3回分 + 1回分)
- 1 5 回目 (7/22) プロジェクト演習
- 中間発表会
- 1 6 ~ 2 3 回目 (10/7 ~ 10/28*) 専門プロジェクト演習 (授業4回分 + 4回分)
* 9/24 ~ 9/30の補講期間も活用して良い
- 2 4 回目 (11/4) 専門プロジェクト演習
ポスター発表会
<担当教員による評価>
- 2 5 回目 (11/11) 技術者倫理とコンプライアンス (1)
- 2 6 回目 (11/18) 技術者倫理とコンプライアンス (2)
- 2 7 回目 (11/25) 技術者倫理とコンプライアンス (3)
- 2 8 回目 (12/2) 技術者倫理とコンプライアンス (4)
- 2 9 回目 (12/9) 技術者倫理とコンプライアンス (5)
- 3 0 回目 (12/16) 報告書作成
報告書提出
レポート・アンケート

(2) 授業の進め方

授業の中心はPBLによる課題解決である。PBLは、日本では経験の浅い授業形態であるが、欧米ではこれにより技術者の最も重要な能力のひとつである「デザイン能力」を養う上で大きな効果をあげている。PBLの基本になっているプロジェクトによる課題解決は、企業での基本的な仕事の進め方であり、この授業によって技術者として仕事をしていく基本能力を養う。

なお、夏休み期間中の集中講義期間（9月24日～30日）も活用することで、後学期の授業を繰り上げ終了する。

(3) 授業時間外の学習

PBLの実施は、授業時間外の活動を含めて行う。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

〔評価方法〕

講義におけるレポート(20%)、グループによる課題解決(60%)、報告書(20%)とする。
その上で出席点としての減点(3回以上欠席した場合は、4回目からの欠席1回当たり5点減点)により評価する。

〔評価基準〕

以下の観点で、いずれもの能力が十分に確認できた場合に100点とし、部分的に不十分だがほぼ能力が認められれば60点とする。

- (1) 講義での課題に対して、十分考察し結果をレポートにまとめることができること。
- (2) PBLにおいて、講義で学んだことを応用し、課題に対して有効な結果を導き出すことができること。
- (3) PBLにおいて、他と協調して目的を達する案を出し、計画的にそれを実現し、結果を評価し、それを第三者に分かりやすく説明することができること。
- (4) PBLで行ったことの報告者が、第三者に分かるように記述できること。
- (5) 技術者倫理の基本的な考え方を理解していること。

【オフィスアワー：授業相談】

中野和司教授(西2-323室)、前佛栄客員教授(共同研究センター3階302号)および岡崎昌史非常勤講師(共同研究センター3階302号)が対応する。
メールであらかじめアポイントメントを取ってから訪問すること。

【学生へのメッセージ】

夜間主コースの学生も希望すれば受講できる。

【その他】